

生徒各自の課題に応じた支援の在り方 ～高等部「職業技能」の授業実践から～

小出特別支援学校 高等部 滝沢雅志 村田敏恵 松原由美子

生徒（3名）の実態

高等部1年生 男子生徒 S・K

○やりかたが分かれば、確実に作業ができる

▲一斉指導が苦手
▲決まった場面以外で報告や相談が苦手
▲会話のパターンが少ない



高等部2年生 男子生徒 K・H

○何度か経験した作業は得意

▲指示内容を理解せず、「はい」と返答し、作業がうまくいかない



高等部3年生 女子生徒 I・M

○慣れた環境では、伝えるように話すことができる

▲慣れない作業や環境では、消極的な態度で泣くことが多い
▲自分から行動を起こすことができない



それぞれの目指す姿

☆いつもと異なる状況になったときに、その状況を簡単な言葉で教師に報告することができる
☆休憩の号令で休憩することができる



☆指示された内容を復唱し、内容を理解して活動することができる
☆教師が課題を書いたメモを確認しながら、正確に課題に取り

☆自分から報告をすることができる
☆指示を理解できない場合は、質問や確認をして作業に取り組むことができる

手立ての工夫と実践の概要

- ◇個別に作業内容を指示・確認報告するための支援具
- ◇イレギュラーが発生しやすい課題を設定
→場に応じた報告の反復練習
- ◇「作業中」「休けい(トイレ、水のみ)」カードの使用



- ◇指示された活動内容の復唱
- ◇教師が質問をし、指示内容を理解したか確認
- ◇メモを確認して作業

(はい)
20個切ったら報告ですね。



牛乳パック
20個切って、報告してください。

- ◇写真カード
報告しなければならない例を示した写真カード



- ◇トークン
報告することのメリットの意識付けとして利用
報告するとバズルのパーツ1枚が手に入る設定

成果と課題

- 材料の不足が生じるよう設定し、報告を繰り返し行ったことで自分から報告することができた。また、セルフカードや手順表を確認することでスムーズに報告することができた。
- 定着するには、時間が必要である。

- 指示された作業内容を本人が復唱したことで、ミスが少なくなり、自信をもって作業に取り組むことができた。
- 自発的に教師に質問や確認をしながら一人で作業ができるように、質問の仕方を教える必要がある。

- トークンを設定することで、自分から報告する意識が高まり、今まで言えなかった自分の失敗も報告することができた。
- 現場実習では、なかなか自分から報告することができなかつたので、般化せざるための継続した支援が必要である。